平成27年度　目標管理シート（課別組織目標）

課かい名	国際港湾振興課	課かい長名	桑原　真澄

組織目標	八代港のさらなる躍進と国際化を目指します。

課重点事業番号	今年度取り組む重点施策とその具体的目標等 課重点事業 関連重点施策番号・支所重点事業番号	①具体的目標（当該年度で、何を（どのような現状を）どのような状態にするのか） ②課題、特記事項等		具体的目標を達成するための具体的な方法、手段、スケジュール等	変更内容	中間レビュー　（10月1日時点） ・上半期（4月～9月）における進捗状況（活動実績等） ・下半期（10月～3月）に向けた課題等	中間進捗度	目標の達成状況（3月末時点見込） ・目標達成のために行った取組（活動実績等） ・その取組による効果（達成できなかった事由、理由等）	達成度	次年度に向けて（引継ぎ事項） ①具体的目標（次年度において、どのような現状をどのような状態にしたいのか） ②課題、特記事項等	
国際港湾振興課①	**国際コンテナ航路の誘致と国際コンテナ貨物量の増加** 経済文化交流部	①具体的目標	コンテナ貨物については、平成26年に前年比30.7%増の18,046TEUで過去最高の取扱量を記録。この勢いを保持しながら、更なる貨物獲得を目指す。併せて、航路の新設、増便の誘致も図っていく。 ・訪問企業数等：500件 ・コンテナ貨物取扱量：20,000TEU ・船社訪問件数：30件	・従来の貨物情報の獲得に加え、八代港独特の貨物（農産物、リーファー貨物、危険物貨物等）の創貨に向け、関係業者との連携、協議、情報収集等に積極的に取り組む。 ・新規荷主獲得のため、DMを発送し、八代港利用についてのアンケート調査を実施する。その結果に基づき、利用する可能性の高い荷主を優先的にポートセールスを行い、八代港へのシフトをお願いする。 ・フードバレー構想の鍵となる台湾航路や荷主のニーズが高い中国直行便等の誘致を目標に、積極的な船社訪問を通じて開設に向けた情報収集を行う。 ・PRのためのポートセミナーの実施：年4回		【進捗状況】 企業訪問件数（9月末）146/500件 船社訪問件数（9月末）5/30件 八代港・熊本港合同ポートセミナー（7月） 外貿コンテナ取扱量（9月末） 13,742/20,000TEU ＜前年同月累計比2.6%増＞ 【課題等】 コンテナ取扱量は、前年と比べて微増となっているが、夏以降、中国経済の減速等の影響が出てきており、直近は前年割れの状況。新たな貨物の掘り起こしと八代港の継続利用を促す必要がある。下半期はより積極的なポートセールスを行う。 八代港の利便性向上のためには、新たな航路開設が必要不可欠。台湾航路、上海航路を持つ船社にターゲットを絞り誘致活動を行う。	b	【進捗状況】 企業訪問件数（3月末）500/500件 船社訪問件数（3月末）30/30件 外貿コンテナ取扱量（12月末） 17,782/20,000TEU ＜前年比1.5%減＞ 八代港・熊本港合同ポートセミナー（7月） 上海ポートセミナー（11月） 釜山ポートセミナー（1月） 【未達成事由】外貿コンテナ取扱量 ・コンテナ取扱量は、夏以降、中国経済の減速等の影響が顕著となり、対前年比1.5%減。	b	①具体的目標	外貿コンテナ取扱量は、中国経済の減速等の影響で全国的に減少傾向だが、コンテナ航路の開設等で利便性を向上し、取扱量を増加させていきたい。 企業訪問件数：500件 船社訪問件数：30件 外貿コンテナ取扱量：22,000TEU
		②課題、特記事項等	平成25年11月期のコンテナ流動調査によると、熊本県内の全体貨物量の15%が八代港、熊本港の利用で、85%は博多、北九州に流れている。これらの荷を獲得していく必要がある。							②課題・特記事項等	新たなコンテナ航路の開設 荷主ニーズへ及びフードバレー構想推進に応えるには、直行便（台湾、上海航路）の就航が不可欠。 新たな航路助成制度を設け、船社向けポートセールスの強化が必要。
国際港湾振興課②	**八代港の整備促進** 経済文化交流部	①具体的目標	八代港が整備されることにより、地域経済の発展が期待できることから、国・県・県南地域の自治体及び地元経済団体等と連携を図りながら、必要な施設整備に向け要望活動を行う。加えて、整備に必要な情報収集活動を行う。 国・県への要望回数：4回	・現在、直轄事業は、水深14m第1バースに係る岸壁、泊地が完成し、残事業は航路浚渫のみとなっている。今後の八代港の整備促進を図る上では、港湾整備に大きく影響する直轄事業の事業規模の維持・拡大を図ることが重要となることから、引き続き航路の早期完成を国、県に対し要望していく。 ・政府要望7月、10月、県要望6月 ・その他要望については、八代港の整備に係る企業ヒアリング等を通じて、必要な要望を行っていく。 ・フルガントリークレーンの早期整備 ・貨物船とクルーズ客船の岸壁利用調整と代替岸壁の検討 ・道路冠水工事完了後の状況確認 ・大島地区航路安全対策の早期完了 ・耐震強化岸壁の早期着工 ・CSF倉庫・冷凍倉庫を含む大型倉庫の整備 ・照明灯の増設 ・リーファーコンセントの増設等CY内における必要な施設の整備		【進捗状況】 要望会開催状況：3回（9月末） 九州地方整備局（7/7）、国土交通省（7/9）、熊本県（7/14） 【課題】 H29年度供用開始予定の新たなCYの諸元（案）の策定、水深14m岸壁第2バースの新規着工、耐震強化岸壁の着工、貨物船とクルーズ客船の岸壁利用調整に係る代替岸壁の検討等は進んでいないため、引き続き、国、県等と情報共有を図っていく。	a	【進捗状況】 要望会開催状況：5回/4回（3月末） 九州地方整備局（7/7）、国土交通省（7/9）、熊本県（7/14）、国土交通省（11/13）、国土交通省（12/22、24）	a	①具体的目標	八代港が整備されることにより、地域経済の発展が期待できることから、国・県・県南地域の自治体及び地元経済団体等と連携を図りながら、必要な施設整備に向け要望活動を行う。加えて、整備に必要な情報収集活動を行う。 国・県への要望回数：4回
		②課題、特記事項等	・水深14m岸壁第2バースの新規着工 ・耐震強化岸壁の着工 ・貨物船とクルーズ客船の岸壁利用調整と代替岸壁の検討							②課題・特記事項等	水深14m航路の早期完了 水深12m岸壁老朽化対策の早期完了 水深10m岸壁改良の早期完了 大型ガントリークレーン及び新コンテナヤードの早期完成 耐震強化岸壁の新規着工 大島航路の安全確保対策の早期完了

課重点事業番号	今年度取り組む重点施策とその具体的目標等 課重点事業 関連重点施策番号・支所重点事業番号	①具体的目標（当該年度で、何を（どのような現状を）どのような状態にするのか） ②課題、特記事項等	具体的目標を達成するための具体的な方法、手段、スケジュール等	変更内容	中間レビュー （10月1日時点） ・上半期（4月～9月）における進捗状況（活動実績等） ・下半期（10月～3月）に向けた課題等	中間進捗度	目標の達成状況（3月末時点見込） ・目標達成のために行った取組（活動実績等） ・その取組による効果（達成できなかった事由、理由等）	達成度	次年度に向けて（引継ぎ事項） ①具体的目標（次年度において、どのような現状をどのような状態にしたいのか） ②課題、特記事項等
国際港湾振興課③	**海外クルーズ船の誘致** 経済文化交流部	①具体的目標 ・交流拠点「八代港」の内外へのアピールと経済効果の大きい海外大型クルーズ客船の寄港増加を目指す。 訪問企業数：50件 クルーズ客船入港数：11回	・バース会議で岸壁の利用調整が済み、寄港が決定したクルーズ客船については、岸壁での物産展等イベントを開催していく。 ・船社を始めとするクルーズ客船関係企業訪問については、バース会議で得た情報を考慮しつつ、客船誘致に努める。 ・クルーズ船社等からの評価が高い市民総出のお見送りを継続していくため、クルーズサポーター制度の導入を目指す。		【進捗状況】 クルーズ客船入港数：9回（9月末） 岸壁での物産展開催回数：6回（9月末） クルーズサポーター制度の導入（6月） 登録人数（9月末） ・お見送りサポーター：42人 ・通訳サポーター：10人 ・パフォーマンスサポーター：9人 【課題】 岸壁利用調整の兼ね合いから、誘致活動は手控えている状況。下半期は、来年度の岸壁調整状況の説明やユーザー側の要望について、企業訪問等を行う。	a	【進捗状況】 訪問企業件数：90件/50件（3月末） クルーズ客船入港数：12回/11回（3月末） ＜内訳＞外航船11回、邦船1回 岸壁での物産展開催回数：7回（3月末） クルーズサポーター制度の導入（6月） 登録人数（3月末） ・お見送りサポーター：44人 ・通訳サポーター：11人 ・パフォーマンスサポーター：9人	a	①具体的目標 岸壁及び後背地の利用が限られる中、バース会議での調整済みクルーズ船について、確実に受け入れを行う。乗客の市内誘客に向けた施策を展開する。 訪問企業件数：50回 クルーズ客船入港数：11回
		②課題、特記事項等 ・貨物船との岸壁利用調整 ・おもてなし体制の確立							②課題・特記事項等 初寄港に限定した物産展開催とゲート開放を実施。 見送り体制は、クルーズサポーター制度の有効活用でカバーする。 乗組員への市内周遊シャトルバスサービスの継続。 外資旅行代理店への県南観光ルートのPR。
国際港湾振興課④	**みなとやつしろフェスティバルの開催** 経済文化交流部	①具体的目標 ・市民が直接、海や港に触れ合える「みなと八代フェスティバル」を開催することで、八代港のPRや立地企業等の周知を図る。 入場者数：10,000人	・岸壁や野積み場等の利活用が活発なため、早い段階で開催場所の確保に向け、情報収集や港湾関係者の協力を取り付けていく。 ・限られた予算内で八代港のPRが最大限図られるよう、イベント内容の見直し・改善を行う。 ・クルーズ客船寄港数の増加に伴い、市民が海や港と触れ合える機会も多くなることが予想されるため、今後のみなと八代フェスティバルの在り方について、平成29年度までに検討を進める。		【進捗状況】 10/4　第28回みなと八代フェスティバル開催決定 【課題】 水深10m岸壁後背地は、活発な荷役作業のため、確保が困難。本年度は、水深12、14m岸壁後背地で決定。今後も10m岸壁は高い利用率が見込まれるため、次年度以降は水深12、14m岸壁後背地での開催を軸に関係者と調整を進める。 在り方の検討も引き続き進める。	b	【進捗状況】 入場者数：9,979人/10,000人（10/4） 本年度は、水深12m、14m岸壁で開催。	a	①具体的目標 市民が直接、海や港に触れ合える「みなと八代フェスティバル」を開催することで、八代港のPRや立地企業等の周知を図る。 入場者数：10,000人
		②課題、特記事項等 ・開催場所の確保 ・今後のみなと八代フェスティバルのあり方に向けた検討							②課題・特記事項等 開催場所の確保 今後のみなと八代フェスティバルのあり方に向けた検討